

11月29日（日）オンライン「ロシアを紐解く」研修終了の報告

去る11月29日（日）14:30～16:00、第1支部研修委員会主催の「ロシア研修」が修了しました。JGAとして初めてロシアに焦点をあてた研修で、講師にお迎えしたJGA理事の畑川明子正会員（露・英）は研修のタイトルを「隣国ロシアからの旅行者は和食の好きな親日家」とし、日頃のご研究によるロシアと日本の文化と歴史の接点を解説されました。

また、通訳案内士歴27年の経験から、ロシア人気質や日本に関する興味、期待感など多岐にわたる講義となりました。

エカチェリナ2世に謁見した初めての日本人の漂流民の話、1792年に根室にロシア船が来航している歴史、1904年の日露戦争、1917年のロシア革命、第2次世界大戦と捕虜、シベリアの赤い夕陽と久保田一竹「辻が花」のモチーフ。1991年、ソ連崩壊後に日本政府のロシア市場経済移行支援の通訳として講師のロシア語通訳ガイドの仕事が始まった事など話題は広く興味深く展開しました。また文化面では、ロシア文学と最近の作家、アクーニン（悪人から命名の日本文学者）の紹介、クラシック・バレエ、音楽、スポーツの分野での交流から多くを学んでいる事。経済活動の分野でも発展見込みが高い事などの現状の分析も興味深いものでしたが、長年の経験からたたき上げたプロ魂とロシアのお客様から常に注入いただくとおっしゃる強烈なエネルギーに魅了され、学びとなりました。

参加申込み者30名（会員28名、非会員1名、賛助会員1名）の中、当日画面の前にご参集された方は20名と、常よりも小規模のオンライン研修となり、研修開始前のZoom入室時にも余裕ができ、入室の皆様の様子もうかがえて、久しぶりにガイドのお仲間にあえてうれしい思いをいたしました。

同日に別件の集合研修も企画されたため、後日の「見逃し配信」可能期間を長くとり、20名の方にご覧戴き、本研修は完了しました。

研修にあたり、ご協力いただきました新井事務局長、委員の皆様、畑川講師、ご参加の皆様に感謝申し上げます。

第一支部研修担当 矢木野さか恵